令和８年度 第１回楢葉町原子力施設監視委員会　議事概要

日　時：令和８年８月 26 日（水）　　13:15～16:30
場　所：楢葉町役場３階大会議室

配付資料
次第
出席者名簿
資料１　　福島第一原子力発電所に関する要確認事項（早見表）
資料２　　福島第一原子力発電所に関する要確認事項への回答【トピックス事項】
資料３　　福島第一原子力発電所に関する要確認事項への回答【トピックス事項除く】
資料４　　福島第二原子力発電所に関する要確認事項（案）
資料５　　委員会からの情報発信について（案）

１．挨拶および委嘱状交付

松本町長より各委員に委嘱状が交付され、委員長として岡嶋委員が指名された。また岡嶋委員長から副委員長として大越委員が指名された。その後、松本町長、各委員、および東京電力ホールディングス株式会社（以後、東電 HD）の代表者・小川氏より挨拶がされた。

２．議事

（１）福島第一原子力発電所における論点への回答（ロードマップに基づく今年度の作業計画を含む）

「資料２　福島第一原子力発電所に関する要確認事項への回答【トピックス事項】」について、東電 HD より説明がされた。その後、委員が議論を行った。委員による主な確認事項・意見は以下のとおりである。

【確認事項】

- 資料２の P.1～7、熱中症対策について、安全第一で、作業員が ER（救急室）を使いやすいような取り組み、熱中症管理者の配置、体温・心拍数を測るウェアラブルデバイスの推奨、早朝・夜間での作業などの対策がされており、熱中症の発生および重症化の抑制ができている。
- 資料２の P.21～26、ロボットアームの不具合について、不具合に関連する部品を多数確保し、都度部品交換を行う方針である。海外製のものは品質保証が難しく、また、部品交換等の納期が長くなる問題があった。この知見は今後の取り組みに活かしていく。
- 資料２の P.27～33 のマイクロドローン調査、P.45 や P.48 の中長期的な汚染水対策のための調査など、被ばく量管理を含めた安全かつ円滑な作業設計のための調査が進んでいる。
- 資料２の P.41～42、フランジタンクの除染・解体は問題なく完了した。
- 資料２の P.43～51、汚染水対策について、2028 年度末までを目標としていた汚染水の発生量抑制を既に達成しており、更なる対策を進めている。モニタリングの結果、海側への汚染水流出はほとんど無い、無視できる程度であることが確認できている。

【意見】

- 資料 2 の P.16、使用済燃料の共用プールへの移行について、既に冷却が十分に進んでいるならば、共用プールを経由せずに屋外保管に移す方が、リスクが低くなるのではないか。
- 町民とのコミュニケーションでは、廃棄物の保管・管理だけでなく、その後の処分までをつなげた議論も重要になる。
- 核セキュリティに関し、同東電 HD 内の柏崎刈羽に端を発してトラブルが続いている。核セキュリティについては具体的な情報が出せない分、良くないことが起こっているという印象だけが町民に伝わる。信頼の醸成のために、東電 HD がどういった姿勢で何を考えて取り組んでいるのかを説明いただくことが重要である。

（２）福島第二原子力発電所の論点について

「資料４　福島第二原子力発電所に関する要確認事項（案）」について、事務局が説明した。その後、委員が議論を行った。資料４の要確認事項の項目が十分に整理されていることを確認した。今年度は、福島第二原発の使用済燃料プールで冷却系のトラブルが発生したことを踏まえ、安全な廃炉作業が進められているかを確認するために、次回（第２回）委員会で現地視察を行うことを決定した。

（３）委員会からの情報発信について

「資料５　委員会からの情報発信について（案）」について、事務局が説明した後、委員が議論を行った。今年度の出前講座は資料５の実施案①を採用することを決めた。出前講座での委員からの情報提供は、本日の議論や 10 月に実施する福島第二原発の現地視察の結果を踏まえた、委員会からの報告を行うこととした。

３．閉会

事務局より閉会挨拶がなされた。　以上